

親・子・孫三代のチャレンジ精神 受け継がれてきた信念を次の世代へ (株)神山鉄工所



代表取締役社長
神山 裕義 氏

◆創業 大正8年
◆所在地 東大阪市高井田西5-4-18
◆電話 06-6782-2255

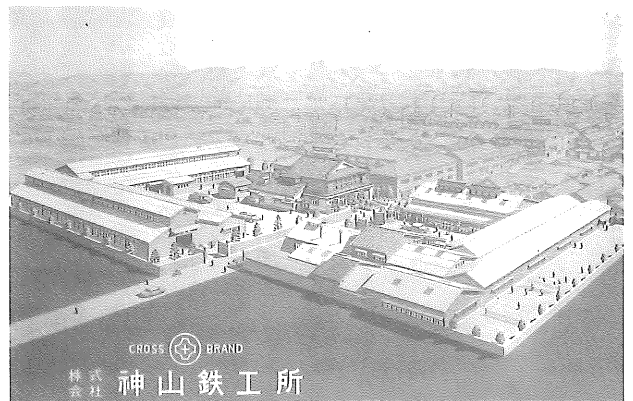
創業者である祖父（時蔵氏）は、小学校卒業後、大阪砲兵工廠に入職し、その経験をもとに大正8年大阪市東成区で創業。従来外国からの輸入に頼っていたダブルヘッダー機等を独自開発し、生押しベット・鋌釘を生産。昭和14年には伸線機、ローリングマシン、すりわり機を設計製作し、大小ねじ、木ねじ等線材製品の一貫生産体制を確立した。

同社成長の転機は、祖母が四国お遍路の際に得た「米フィリップス社のプラスねじ特許が切れる」という情報をもとに始めた十字穴パンチ開発とプラスねじの生産であった。これを機に37年に奈良県桜井市に工場を新設し、各種ねじ生産の強化を図った。48年の時蔵氏逝去に伴い、

父である時男氏が事業承継、時を同じくして現代代表者である裕義氏も、勤めていた会社を辞め、同社に入社。当時切削によるドリルねじ生産が一般的なか、時男氏が冷間鍛造の機



▲初期の本社工場内風景

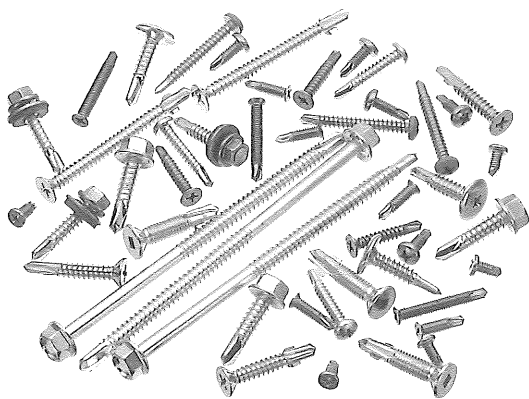


▲初期の本社

械を設計し、自社型ピンチポイントを用いての全冷間鍛造によるセルフドリリングねじ「ユニポイント」の製造を始め、59年には特許を取得。今では年間6億円以上に達する主力商品となっている。

平成3年に3代目として事業承継した裕義氏は、長寿企業として事業継続してきた秘訣に「創業者から受け継がれてきた信念」をあげる。「先代である父から、祖父は『無から有を作り出した』とよく聞かされました。戦前のお金の無い時代に頼母子

講からお金を借りて機械を購入したところから当社はスタートし、先代もそうであったように、常に新しいものにチャレンジする精神が、社是である『技術開発と人の和』として脈々と受け継がれています」と話す。前歴を問わず様々な分野の人材を採用する事で、固定観念にとらわれない新しい発想を生み出す環境を創り出してきた同社。創業者から受け継がれてきたチャレンジ精神を発揮し、新時代の知恵や技を取り入れながら、これからも進化の歴史を歩んでいく。



▲主力商品である「ユニポイントドリルねじ」